



第4回 全国小児病棟遊びのボランティア交流集会 抄録



長期入院の子どもに笑顔を 家族に安心を

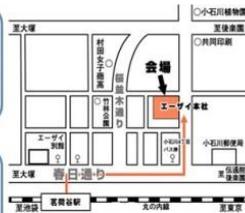
第4回遊びのボランティア 白熱教室



遊びは子どもの命、権利です。遊びのボランティアは入院することでいっぱい遊べない子どもたちに遊びを届けています。しかし病院にボランティアが入るのは簡単ではありません。第4回は、会場全員参加型の「遊びのボランティア白熱教室」を開催します。パネラーは病気の子どもと遊びのボランティアに関わるさまざまな立場の方々です。司会は会場の皆さんに「他の病院ではどうしているの?」「何かお知恵はありませんか?」とマイクを回しながら、解決策をみんなで考えます。

子どもの入院を応援したい方々、お友達を誘っていらしてください。 わいわいがやがや、声を出し合いましょ!!

開催日時 平成28年3月12日(土)
午前10時~17時
会場 エーザイ株式会社ホール
〒112-8088東京都文京区小石川4-6-10
地下鉄丸の内線茗荷谷駅下車



参加費 無料

お問い合わせ・参加申し込み

全国小児病棟 遊びのボランティア ネットワーク 東京事務局 (担当:坂上)
TEL 080-5527-4379
E-mail a.sovol@3.dion.ne.jp
※詳細は<http://asobivolnet.com/> をご覧ください
※会場への問い合わせはご連絡下さい

スケジュール
10:00 受付
10:30~12:30 第1部 どうやってボランティアが入っていくの? (医療現場をめぐる問題提起)
12:30~13:20 休憩 (昼食は各自持参)
13:20~15:30 第2部 入ったあとはどうなるの? (ボランティア活動をめぐる問題提起)
15:30~16:50 第3部 交流会・名刺交換

白熱教室パネラーのみなさん

- 総合司会 高橋美佐子(朝日新聞文化くらし報道部記者)
- 松本公一(国立成育医療研究センター 小児がんセンターセンター長・医師)
- 緒川香奈(国立成育医療研究センター 看護師)
- 久野訓子(長野県立こども病院ボランティアコーディネーター)
- 藤瀬佳見(あいち小児保健医療総合センター 保育士)
- 土田輝美(大阪府立母子保健総合医療センター ボランティアコーディネーター)
- 朱文字 (香川県がんセンター AICOP 会員)
- 三上華子(東京女子医科大学 脳神経外科 医務の会)
- 井上み子(子どものちから) 近藤博子(がんの子どもを守る会 副理事長)
- 伊藤明恵(順天堂医院 緩和ケア科) 神田美子(京大病院にこにこママ)
- 坂上和子(OPO 病児の子ども支援ネット 理事長)
- 川上清子(日本女子大学 教授) 小松美智子(筑波大学 教授)
- 茨木尚子(明治学院大学 教授) 患者家族

主催 全国小児病棟遊びのボランティアネットワーク
助成 公益財団法人キリン福祉財団
協賛 エーザイ株式会社
後援 厚生労働省 日本小児科学会 朝日新聞厚生文化事業団 (NPO) 日本病院ボランティア協会 東京ボランティア市民活動センター

94人の参加がありました。医療関係者ほか、患者と家族、大学教員、学生、ボランティア、コーディネーター等が参加されました。愛知、京都、大阪、東京、神奈川、埼玉、北海道、沖縄からもご参加戴きました。以下参加者の感想の一部をご紹介します▼各病院の活動環境は違うのでお話が聞けて参考になりました▼同じような悩みや課題を共有し具体的な解決策が聞けて参考になった▼病院によってこんなにも違うのかと驚きました▼地域柄情報を交換する事が難しい中、大変貴重な時間をいただきました▼当事者の立場、ご家族の立場、ボランティア立ち上げの経緯、各施設の創設から充実への努力、成果が具体的によくわかり勉強になった▼ネットワークが日本中網目になっていくことを、どの病院にもコーディネーターがいることを、夢見ます▼病児だけでなく、付き添うその親御さん、また、その兄弟のケアはとても重要であるということを感じました▼第一部で、「自身が話せる場が欲しかった」という親の気持ちは胸が痛くなる思いでした▼パネラーの皆様が熱い思いに圧倒されました▼ボランティアの気持ちには胸が痛くなる思いでした▼パネラーの皆さんのか。施設ごとに明確化していないように感じました▼小児病棟に入院したとき、同室の友達は白血病で長期入院している子ばかり。ゲームやDVD、ケータイを見て、気をまぎらわせて1日を過ごしていました。なので病気で苦しんでいる子供達にもっと遊びを提供してほしいです▼ボランティアの世代交代や、定着することの難しさはどことも同じ問題であることが分かった▼今まで知らずに申し訳ありません▼無償、善意だけに頼るのではなく、もっと行政が価値を認め、活動が継続、向上していけるように資金を投じるべきだとおもっていました。でも、ボランティア活動であるからこその出来ること、その思いが集結して大きな力になるのかな、と▼日本にもっともっとと広がることを願います▼あつという間の白熱教室だった。

— (公財) キリン福祉財団の助成により開催 —

